

<b>事務事業名</b>	<b>救急救命士育成事業</b>	<b>整理番号</b>	<b>25304-000</b>
<b>所管</b>	消防本部 御殿場消防署		

**事務事業の位置付け**

期間	平成 9年度 ~ 平成 21年度	根拠法令・要綱等	消防法 救急救命士法 救急業務の実施基準
基本計画における位置付け	基本政策	2-5 防災体制の充実	関連 2-5-3 消防・救急体制の充実
	政策	2-5-3 消防・救急体制の充実	政策 2-5-3 消防・救急体制の充実

**事務事業の内容**

目的 (何のために)	救命士の養成
対象 (誰・何を)	消防学校専科教育の救急標準課程を修了した職員の中から推薦する。
手段 (どのようなやり方で)	救急救命士養成機関に入校させ、救急救命士の資格を取得させる。
成果 (どのような状態にしたいか)	全ての救急車に救急救命士を搭乗させ住民の救命率の向上を図る。
事務事業の背景・住民の意向	複雑多様化する救急事案に適切に対応するため、高度で専門的知識を有する救急救命士が求められている。
見直し改善の経過	年齢構成、再教育等の生涯教育、処置拡大範囲に伴う教育実習等、総合的な検討を行い長期計画を樹立する。

**事務事業の実績・投入コスト**

年度	事務事業実績	投入コスト(千円)												
平成16年度	救急救命士養成機関へ2名、救急救命士の有資格者1名を採用	<p>投入コスト(千円)</p> <p>■直接経費(上段) ■人件費(下段)</p> <table border="1"> <caption>投入コスト(千円)の推定値</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>人件費(下段)</th> <th>直接経費(上段)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>16年度</td> <td>6,000</td> <td>5,000</td> </tr> <tr> <td>17年度</td> <td>6,000</td> <td>5,000</td> </tr> <tr> <td>18年度</td> <td>6,000</td> <td>3,000</td> </tr> </tbody> </table>	年度	人件費(下段)	直接経費(上段)	16年度	6,000	5,000	17年度	6,000	5,000	18年度	6,000	3,000
年度	人件費(下段)		直接経費(上段)											
16年度	6,000		5,000											
17年度	6,000	5,000												
18年度	6,000	3,000												
平成17年度	救急救命士養成機関へ2名、救急救命士の有資格者1名を採用													
平成18年度	救急救命士養成機関へ1名、救急救命士の有資格者1名を採用													

**評価指標**

救急救命士数(人)	救命士充足率(%)	救命士出勤率(%)																														
<table border="1"> <caption>救急救命士数(人)の推定値</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H16</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>H17</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>H18</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>H21目標</td> <td>24</td> </tr> </tbody> </table>	年度	人数	H16	15	H17	18	H18	19	H21目標	24	<table border="1"> <caption>救命士充足率(%)の推定値</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>充足率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H16</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>H17</td> <td>75</td> </tr> <tr> <td>H18</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>H21目標</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	年度	充足率	H16	60	H17	75	H18	80	H21目標	100	<table border="1"> <caption>救命士出勤率(%)の推定値</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>出勤率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H16</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>H17</td> <td>95</td> </tr> <tr> <td>H18</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>H21目標</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	年度	出勤率	H16	80	H17	95	H18	100	H21目標	100
年度	人数																															
H16	15																															
H17	18																															
H18	19																															
H21目標	24																															
年度	充足率																															
H16	60																															
H17	75																															
H18	80																															
H21目標	100																															
年度	出勤率																															
H16	80																															
H17	95																															
H18	100																															
H21目標	100																															

**事務事業の評価**

観点別・一次評価(担当部署の評価)		コメント	今後の方向性
観点別評価	必要性	本資格の創設により搬送途上での医療に従事する者の質的向上を図ることで、これまで格段に劣っていた搬送途上における医療の質の向上を図り、医療総体のサービスの向上につながるものである。	継続
	有効性		
効率性			
一次評価	A		
二次評価(行政評価委員会の評価)		コメント	今後の方向性
二次評価	B	計画的な救急救命士の育成に努められたい。	継続

**改革プラン**

平成19年度からの対応	当消防本部は、平成18年4月1日から始まっている薬剤投与(エピネフリン)について、現在救急救命士4名が静岡消防学校で薬剤投与講習会を終了し50時限(48時間)の病院研修も終了しています。19年度も2名の救急救命士が静岡消防学校で薬剤投与講習会50時限(48時間)の病院研修を受講、また1名の気管内挿管病院研修を予定しています。
平成20年度以降の対応	全ての救命士が心肺停止状態傷病者に対して救急対応が出来るように病院研修受講をしていき、救急救命率の向上を図りたい。
改革により予想される成果	救急救命士の教育と再教育(実習)により、資質の向上と救命効果の向上が図られる。